ディアコニア

306

信頼の貸しこし・一片の信頼

牧師　佐藤千郎

「それからイエスは、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日の後に復活することになっている、と弟子たちに教え始められた。しかも、そのことをはっきりとお話になった。すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペトロを叱って言われた。「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。」それから、群衆を弟子たちと共に呼び寄せて言われた。……（以下略）」

日本基督教団隠退教師となり、教会の牧会の現場を退いてからは、「日々の聖句」（ローズンゲン）の聖書日課に目を通し、その日の聖句に思いを巡らせながら、手元にある書物を開くことを楽しみとしています。

今年の受難節前第一主日（2月19日）の福音書の箇所は、冒頭に記したマルコ福音書8章31～38節でした。

マルコ福音書8章27～38節）は、ペトロの信仰告白も、主イエスの叱責も、群衆と弟子たちのみ言葉への招きも、「それから」と言う接続詞でつなぐことのできる「その日」の一連の出来事として記しています。そのことを通してマルコは、イエスを救い主キリストと告白しつつもなお、サタンの誘惑に負け、神のことを思わず、人間のことを思うことへと堕ちていく私たちに耐え、情け深い愛をもって私たちを信じ、恵みの業へと再びわたしたちを招き、私たちに対する希望を決して失うことのない神の愛と赦しを、今も豊かに届けています。

聖書が伝える「その日」の出来事を思い浮かべながら、本棚を眺めていると、一冊の本に目が止まり、昨秋、この本を手にした時のことが思い出され、そこに記された文章が、聖書が伝える「その日」の出来事と重なりました。

ご存知のように、昨年10月、ベテスダ奉仕女母の家から「ベテスダ奉仕女母の家70年の歩み・小さき者と共に」が、出版されました。小冊子ではありますが、「母の家」の歴史を共に歩んできた方々の文章には、心に届く言葉がいくつもありました。その中のひとつです。

「（前文略）～深津が一生かけて追求したイエスの生き方。『不可能が可能になる。その根本にあるものは、ただ一片の信頼なのです。信ずべくもない時に、それを信じてやる。―その信頼の貸しこしが、この世界を生んだのです。』ということば。今回ベテスダ奉仕女母の家の70年の歩みを丹念にひもといて、最後に残ったのは、このことばです。」（同書、36ページ）

冊子の編集者の一人として、今回の出版に精力的に取り組んだ塩川成子氏が、「私たちは何を受け継いで行くのか」と題して記した結びの言葉です。

「その信頼の貸しこしが、世界を生んだのです。」は、かつて私が経験したことを、鮮明に思い出させます。

１９８０年代の終わり、まだバブルの時代、相次ぐ建築費の高騰により教会堂新築の資金計画が行き詰まり、牧師であった私は、教会総会で決まっていた基本設計の見直しを迫られていました。ところが、今まで交流のなかった信用金庫理事長H氏との出会いから事態は急転し、資金調達の目途がつき、基本設計通りの会堂を献堂することが出来ました。

詳細は省きますが、要するに、「不足の1億円は、借りても、返済のめどが立ちません。10年後でも無理です。」と言い続ける私に、初対面のH氏が「これは完成度の高い建物、町の景観にバランスの取れた教会堂になる。今、建てなさい」と言って必要なお金を、必要に応じ、無担保、無条件で、貸してくださったのです。その時、会計に全く無知な私に、ひとりの教会員が「貸しこし」のことを例に、H氏が教会と牧師を、どれほど信頼しているかを熱っぽく話されました。

しかし、借金を決断するまでの私は、三日三晩祈りつつ悩みました。これは、「恵み豊かな神の声か、それとも、私を貶める悪魔の声か」と。

今から思うと、H氏の信頼に素直に応じられなかった臆病な自分を、恥ずかしく思うのですが、他方、日ごろ口酸っぱく信頼を説く牧師が、「アメージング・グレイス（驚くべき神の恵み）」に、たじろぎ、しり込みする自分に気付く貴重な信仰体験ともなりました。

深津牧師は、聖書が伝える使徒パウロの信仰に自らを重ねつつ言われたのでしょう。「信ずべくもない時に、それを信じてやる。その信頼の貸しこしが、この世界を生んだのです。」と。

そこには、いと小さき者を信頼する神への、揺るぎない信仰を読み取ることが出来ますが、見落としてならないのは、この言葉の直前の「ただ一片の信頼」です。「ただ一片の信頼」が生み出した世界に、いと小さき者に約束された豊かさの実現を、誰よりも確かに確認し、確信へと高めたのが、ベテスダ奉仕女母の家の創設者で、その半生をかにた婦人の村で、村人と共に暮らした深津文雄牧師の、その信仰だったのではないでしょうか。

神に信頼されている私たちに、今、求められているのが、「ただ一片の信頼」。塩川氏の文章に、深津牧師のそんな声を私は聞きます。そして、師の説教集「底点志向者ジェシュアガ（イエス）」の言葉が思い出されます。

「我々にとって、息を殺して、一気に突っ切らねばならぬ、今日的課題とは何か――かんがえてみてください。今の代でジェシュアに従うとは、何か？神に従うといっても、真理に従うといっても良い。それを求めて、ひとり祈るとき、分かっていながら勇気の足りないことはありませんか。」（85ページ）

厳しい財政事情を抱えながらも、かにた婦人の村の建てかえ事業と取り組んでいる今年の受難節に、「日々の聖句」を開き、その日の聖句に思いを巡らしていると、こんな風景や言葉が、私の頭に浮かんできます。

建て替え進捗状況

かにた婦人の村　副施設長
中村 健二郎

かにた婦人の村建て替え事業の進捗状況を報告します。前回、各自治体に負担していただく補助金について、現在入所者を措置している15都道府県を代表して東京都が予算措置を行うこと、建て替え事業の審査書類は既に提出済みで都からの内示を待っている状況であること、しかし、実はいくつかの自治体からの同意がまだ取れていないと国から知らされたこと、などを報告しました。どの都道府県からでも利用できるということは、支援の面では他にはない大きな強みでありますが、補助金に関しては、関係する自治体間の調整が難航しそうだいうことが懸念材料でした。この段階になってもなお、そのことが大きな壁となってしまった形です。

内示が出てからでなければ、入札→工事請負業者の決定、というプロセスに進むことができません。一方で、事業の規模が大きく年度を跨ぐ計画になるため、補助金交付の条件として、年度内の着工と1％分の工事完了が求められています。これ以上内示が遅れれば、この条件を達成することも厳しくなってしまいます。ようやくここまで漕ぎつけた計画が実現不可能になってしまうかもしれない、そんな厳しい状況がようやく動いたのは11月も最終日になってのことでした。

以下、3月初旬までの経過を記します。

11月30日　東京都より内示の通知。年度当初の計画では10月上旬を想定していたので、この時点で約2か月の遅れ。

12月上～中旬　都へ補助金申請書類提出。慌ただしく入札実施準備へ。入札実施日を2月8日に設定し、2月中の契約、3月着工を目指す。

12月21日　入札公示。

1月6日　入札参加受付〆切。しかし、公示期間が年末年始にかかってしまったことや、参加条件がやや厳しいことが影響したためか、参加希望業者が集まらず。

1月11日　公示方法や参加条件などを見直して再公示。入札実施日を2月15日に再設定。結果、千葉県内より3社、東京都内より1社、計4社の入札参加希望が集まる。

1月14日　地域住民説明会を開催。できれば施工業者が決定してからの開催が望ましかったが、直前まで説明がないままでは礼を欠くことにもなり、万が一理解が得られない場合の対応も難しくなるため、この時点での開催となった。大賀区笠名区より13名参加。反対意見などはとくになく、概ね好意的に受け止めていただく。施工業者決定後に改めて説明の機会を持つことを約束。

1月20日　入札参加希望業者現場説明会。4社中3社参加。
2月15日　第1回入札実施。しかし落札予定価格との開きが大きく不成立。
2月20日　再々公示。2月27日を第2回入札日に設定。
2月24日　第2回入札説明会。法人より前回不成立を受けての減額案と見積もり指示書を提示。
2月27日　第2回入札実施。落札予定価格との差額はやや縮まったものの依然開きがあり不成立。

3回の公示と2回の入札を実施したものの不成立に終わったため、2月中の施工業者決定→契約は不可能となる。この結果を受け、年度内着工と1％分の工事完了という条件を達成するためには、これ以上の入札を重ねる時間的余裕はないと判断。国と東京都に問い合わせ、現時点で最低価格を入札している業者との随意契約を結ぶ許可を得る。

この原稿を執筆しているのは3月8日ですが、現時点で予定されている今後のスケジュールも記しておきます。

3月10日　仮契約。
3月11日　定礎式。利用者、職員、法人理事数名、施工予定業者が出席予定。
3月中旬　第2回地域住民説明会。施工業者からの説明。
3月19日　本契約。
3月20日ごろ着工。3月中に、抜根、整地、養生、仮囲いなどの工事を完了する予定。

現在、大沼理事長と五十嵐施設長は、契約のための諸々の準備に奔走しています。かにたの職員たちは急遽決まった定礎式の準備に、私はこれまた急遽決まった住民説明会のため、地元の方々とのスケジュール調整や準備に追われています。年度末の多忙な時期に追い打ちをかけるような非常にタイトで駆け足のスケジュールではありますが、何としても着工に漕ぎつけ、年度内に1％分の工事を完了できるように、職員一同一丸となって、準備作業を進めているところです。

クラウドファンディングへ挑戦

Für die Genesung von Frauen, die Opfer von sexuellen Übergriffen und Gewaltgeworden sind.
KANITA FRAUENDORF NEUGESTALTUNG

タイミングが合わずディアコニアでご案内ができていなかったのですが、前述の流れと並行して、建て替えの資金不足を補うために、クラウドファンディングに挑戦しています。

この建て替え事業の計画は2015年からスタートしましたが、実行に移すまでに非常に長い時間を費やしてしまいました。その間に、コロナ禍、ウッドショック、原油価格高騰、円安、ウクライナ戦争など、建築コスト上昇の要因が相次いで生じました。補助金申請のために具体的な資金計画を作成した時点から

も、さらに上昇し続けています。補助金の金額はもう決まっているので、コスト上昇によって不足する分は、自己資金で捻出するほかありません。

幸い、地元の銀行は、私どもの事業の社会的意義や重要性をよくご理解くださって、融資にも前向きな姿勢を示してくださっています。ある程度借り入れを増やすことはできそうですし、当面の支払いができないという事態は避けられそうです。しかし返済のことを考えれば、やみくもに借り入れを増やすことは避けたいところです。つまるところ、不足分はさらに寄付金を集められるように努力するしかないという状況です。

クラウドファンディングとは、インターネット上で支援を集める仕組みです。幅広く多くの方々から支援を集めることができるので、近年、資金集めの手法として幅広い分野で活用されています。かにたのプロジェクトは、READYFOR（レディーフォー）というクラウドファンディングのサイト上で、12月20日～3月20日までの90日間で実施しています。残念ながらこの号がお手元に届くころには終了となってしまいますが、3月8日現在、ご寄付総額が約2千70万円、900人以上もの方々からご支援が集まっています。終了までに3千500万円集めることを目標としています。

このクラウドファンディングの第一の目的は建て替えの資金集めですが、そのほかに、今まであまり知られて来なかった婦人保護事業のことや、2024年4月に施行される「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」による新しい女性自立支援への理解を広めることも、もう一つの大きな目的です。

多くの方々に興味関心をもっていただくため、また、新たにかにたのことを知ってくださった方々に、よりご理解を深めていただくため、プロジェクトのページでは、かにたの生活のようすも含め、さまざまな情報を発信してきました。それによって大きな反響が起こり、そこからまたご支援の輪が広がっていくことに繋がっています。

こうした発信内容や今後の建て替えの経過報告などは、プロジェクト終了後も、引き続きご覧いただくことができます。インターネットをご利用の方はぜひ一度覗いてみてください。

念願の建て替え工事まで本当にあと一歩です。着工から完成まで無事に進みますように、みなさま、どうか共にお祈りください。よろしくお願いいたします。

https://readyfor.jp/projects/kanitafujinnomura
または「かにた婦人の村　レディーフォー」で検索

施設だより

3年ぶりの宿泊保育

茂呂塾保育園保育士
平野花奈

昨年9月、茂呂塾保育園の5歳児クラスは3年ぶりに宿泊保育に行きました。例年、山梨県の清里へ2泊3日の宿泊保育に行っていました。新型コロナウイルスの流行により2年間行くことができなかったのですが、職員間で何度も話し合いを重ね、今年度は2泊3日の宿泊保育を決行しました。

3年ぶりということで、子どもたちには宿泊保育のイメージがほとんどありません。そのため、室内に虫や植物の写真を貼ったり、園長先生が以前清里に行った際に撮影した映像を子どもたちと観たりして、少しずつ清里のイメージを持つところから始めました。

集合の仕方や現地での過ごし方も、もう一度考え直しました。例年は保育園から出発し、子どもたちと保育者で清里まで向かっていましたが、コロナで外出経験が少ない上、電車に乗っての園外保育も中止していたため、駅や電車内での過ごし方などにも慣れていないことから、今回は新宿駅に集合し、そこから子どもたちと保育者で特急に乗って清里まで向かうことにしました。

宿泊保育に向けての準備が進んでいく中、子どもたちから「ぼくは留守番する。パパとママと離れたくないもん」「ぬいぐるみがないと寝られないんだけど大丈夫かな」という声もあり、保護者と離れて過ごすことに不安な様子がうかがえました。そのため今回の宿泊保育では、活動を詰め込みすぎず、自然に囲まれた中で子どもたちが安定して、穏やかに過ごすことができるよう配慮しました。

いよいよ出発の日。保護者の方に「いってらっしゃい！」と見送られ、特急に乗ります。川が見えると「もう清里着いたかな？」とワクワクしながら窓から見える景色を楽しんでおやつを食べ、友達と隣同士で会話を楽しみながら清里まで向かいます。清里に着いて昼食を取った後は、レンジャーさんと一緒に森の探検に行きました。鳥のさえずりや川のせせらぎが心地よく聞こえます。子どもたちはキャーキャー言いながら、川遊びを楽しんでいました。「靴が浸水した！」。いつのまにか長靴の中に水が入り込み、ジャブジャブと音をさせながら歩く子、大きな石を積み重ねてダムを作る子、持ってきた水筒を川の中に入れて冷やしてみる子、木の実を集めておままごとをする子…それぞれの楽しみ方で自然に触れる姿がありました。

また、野原ではトンボやバッタを捕まえたり、四つ葉のクローバーや花を見つけたりして遊びました。

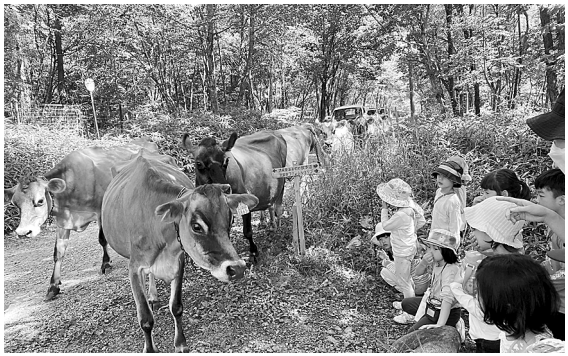
2日目。子どもたちが楽しみにしていたソフトクリームを食べに向かいます。その道中、ジャージー牛が散歩から戻る所に遭遇しました。「牛さんだ！」と子どもたちも大興奮。偶然の出来事でしたが、間近で牛の大群を見ることができました。

その後はふれあいセンターで、キツネやクマ、リスなどのはく製を観察したり、動物の足跡のスタンプラリーを楽しんだ

りして、様々な展示物を見学しました。

また、夜の森にも探検に行きました。レンジャーさんの案内で1日目には通れなかった場所へ連れて行ってもらい、森を進みます。

懐中電灯を消すと前に進むことが難しいくらいの暗闇に怖がる子どもたちもいましたが、昼とは全く印象が違う森の様子を楽しみました。少し開けた場所に到着すると、そこで一人一人シートを敷いて寝転ぶことになりました。風の音が静かに聞こえ、ひんやりした空気がはっきりと感じられます。自然の中に私たちがお邪魔しているような、そんな気持ちになりました。そこでレンジャーさんが絵本の読み聞かせをしてくれました。暗くていつもとは違う環境からか、子どもたちも自然と静かに、耳を澄ませて聞いています。行きはあんなに怖がっていた子どもたちですが、帰る頃には「楽しかった！」「怖かったけど行って良かった」と満足そうな表情で、とても貴重な経験をさせていただいたと感じます。



3日目。公園に行き、遊具で遊んだり、虫探しをしたり、「ママに見せるんだ」と、クローバーやお花を使ったしおりを作ったりしました帰りの電車はクタクタでみんな夢の中…。駅に到着し、保護者の方の顔が見えると泣き出す子や抱きつく子等、安心した姿が見られました。

2泊3日の宿泊保育が終わり、保育園での生活へ戻ってきました。みんなから「おかえりなさい！」と歓迎され、嬉しそうに清里の思い出を話しています。ひとりひとりに清里で何が楽しかったか尋ねると、「長靴が浸水して楽しかった」「みんなでお風呂に入ったのが楽しかった」「ソフトクリームを食べたこと」「四つ葉のクローバーを見つけたこと」と思い思いの楽しみ方で清里を楽しんでいたことがわかりました。

私自身、初めて宿泊保育の引率をしたため行くまではドキドキしていたのですが、3日間たくさんの自然に触れて過ごすことができ、子どもたちとずっと一緒に過ごせたことがとても嬉しかったです。

宿泊保育から帰ってきた子どもたちは、また一段と大きく成長したように見えました。自然豊かな場所で水の冷たさや風の心地よさを感じ、虫や草花などに触れて遊ぶことのすばらしさを改めて感じた3日間でした。

そして、今回3年ぶりに宿泊保育に行くことができ、誰も体調を崩すことなく無事に過ごし、そして無事に帰ってくることができ、本当に良かったと思います。神さまがずっと見ていてくださり、そして守ってくださっていたことに感謝し、また日々の生活を丁寧に過ごしていきたいと思います。

おしらせ

★訃報

小川都代姉の祈りの友・浴本泰子姉が十月十日に召天されました。長い間のお支えを心から感謝し、ご家族の方々の上に天父の深い慰めと平安をお祈りいたします。尚、ご主人の浴本明榮様から、「祈りの友」を引き継いでくださるとのお申し出をいただきました。感謝！

★理事会報告

第243回　12月15日
於法人本部（テレビ会議と併用）
【報告】第一号 業務執行理事報告の件
【審議】第一号 かにた婦人の村施設建替え事業の件（入札実施案について）
第二号 2022年度第二次補正予算の件
理事・監事全員の賛成で原案通り議決。

第244回2月9日決議の省略による議決
【審議】第一号 かにた婦人の村施設建替えの件（入札実施要項、予定価格並びに最低価格等）
第二号 次回理事会開催の件
理事・監事全員の賛成で原案通り議決。

第245回　2月27日
於法人本部（テレビ会議と併用）
【報告】第一号 入札結果
第二号 建替え事業資金借り入れについての経過
【審議】第一号 かにた婦人の村建替え事業に関する第3回入札実施並びに工事契約に関する件
第二号 福祉医療機構からの建設資金借り入れの件
第三号 次回理事会開催の件
理事・監事全員の賛成で原案通り議決。

編集後記

主の大いなる御名を讃美いたします。皆様からお寄せ頂きました沢山のご支援を心より感謝致します。またかにた婦人の村建替え事業へのご寄付も沢山お寄せ頂きましたことを、併せて深く感謝申し上げます。

現在建替えに向けて準備を進めております。建築資材高騰などによる新たな困難もございますが、引き続き支援を必要としている多くの利用者のために、安全かつ心休まる施設が完成致しますことを、共に祈りに覚えて頂きお支え頂けますよう、重ねてお願い申し上げます。

皆様の上に主の恵みと平安をお祈りいたします。

（大沼）

2023年3月20日発行（年3回）
発行人　大沼昭彦
編集人　村田英彦
印刷所　㈱印刷センター
発行所
〒178-0061
東京都練馬区大泉学園町7-17-30
社会福祉法人ベテスダ奉仕女母の家
電話　03-3924-2238
https://www.bethesda-dmh.org/
振替口座 00190-2-138164